

本件各上告を棄却する。

被告人らの弁護人清水賀一および被告人C本人の各上告趣意は、いずれも事実誤認、単なる法令違反の主張であつて、刑訴法四〇五条の上告理由にあたらない（なお、AことBの年令を知らなかつたことにつき、被告人Cに過失がなかつたとはいえないとした原判決の判断は相当である。）。

よつて、同法四一四条、三八六条一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和四七年四月一三日

## 最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	岸	盛	一
裁判官	岩田		誠
裁判官	大隅	健一	郎
裁判官	藤林	益	三
裁判官	下田	武	三